

平成26年度 徳島県立阿波高等学校「学力向上実行プラン」

1 本年度の重点目標

- ①すべての生徒が、授業や補習等を通じて基礎的・基本的な知識や技能を高めるための取り組みを行う。
- ②生徒たちが授業等で培った基礎的・基本的な知識や技能を、希望する進路の実現につながる実践的な力に高められるよう指導する。
- ③生徒たちが学習に主体的に取り組む態度を養うために、家庭での学習時間の確保ができるよう働きかけを行う。

2 学力向上のための実行プラン

・国語科

年次	前年度の改善点	本年度の目標	具体的な教員の取組	評価
1	①基礎的知識の理解と、定着を図る。	①古典の基礎的知識の理解と定着を図り、校外模試で全国平均を上回る生徒の割合の増加、または維持。	①-1 古典文法の定着を図るため適宜小テストを実施し、繰り返し学習させる。 ①-2 家庭学習を確保するため基礎的知識の定着を目的とした週末課題などを作成する。	
				4 3 2 1
2	①基礎的な知識の定着を図るとともに、家庭学習時間を確保するための課題を工夫する。	①スタディーサポートのB2（国公立大合格可能下限値）以上の生徒数100名以上。	①-1 現代文においては、語彙力の向上、古典においては古典文法、古文単語の知識の定着を図るべく、小テストを定期的実施する。 ①-2 定期考査や課題テストの実施に合わせ、計画的に週末課題を準備し、評価の対象とする。	
				4 3 2 1
3	①応用力を高め、入試問題に対応できる実力を養成する。	①大学入試センター試験の校内平均点が全国平均点を上回る。	①-1 教材の工夫を行うなど読解力の養成に資する授業を展開し、得点力の向上を図る。 ①-2 日々の課題や週末課題、授業時の小テストを通じて、語彙力や文法力のさらなる充実を図る。	
				4 3 2 1

・地歴・公民科

年次	前年度の改善点	本年度の目標	具体的な教員の取組	評価
1	①ノートや課題等の未提出者への指導を徹底し、提出率向上を図る。	①ノートや課題等の提出率100%。 ②現代社会のさまざまな課題についての自由研究の提出率100%。	①定期考査前に学習課題を準備し、提出させる。 ②現代社会のさまざまな課題について、テーマを設定し、自由研究を作成・提出させる。	
				4 3 2 1
2	①学習習慣の定着を図るとともに、定期的に基礎学力の定着の	①校外模試で全国平均を上回る生徒の割合の増加または維持。	①定期考査や校外模試の分析を行い、その結果を授業にフィードバックすることにより、より質の高い授業を展開する。	

	確認を行う。			4 3 2 1
3	①授業改善により基礎学力の定着を図るとともに、補習授業も活用して問題演習に取り組む時間を確保し、実践力を身につけさせる。	①大学入試センター試験の平均点を超えた人数が前年度を上回る。	①-1生徒との面談や模試の結果分析を綿密に行い、生徒に応じた授業を工夫する。 ①-2現代社会の諸課題に関心を持たせるとともに、小論文等にも対応できるような題材の提供や問題演習を行う。	4 3 2 1
				4 3 2 1

・数学科

年次	前年度の改善点	本年度の目標	具体的な教員の取組	評価
1	①確認テストを実施し、基礎学力の定着を図る。	①課題提出率 9 割以上を目指し、基礎学力の定着を図る。	①-1 教科書傍用問題集を单元ごとに提出させ、確認する。 ①-2 单元ごとに確認テストを実施する。	4 3 2 1
				4 3 2 1
2	①授業の進度を吟味し、補習授業も活用して、問題に取り組む時間を確保する。	①校外模試で 1 年 1 月と比較して、偏差値 50 以上の人数を増やす。	①-1 日々の課題とクリアーの課題で反復練習を行い、基礎・基本の徹底を図る。 ①-2 長期休業中の補習を中心に演習問題に取り組みせ、校外模試での得点力アップを図る。	4 3 2 1
				4 3 2 1
3	①補習や授業の内容・進度を再点検し問題を解く時間を今まで以上に確保する。	②大学入試センター試験において、国公立大志望者の平均点と全国平均点の差を 5 点以内にする。	①模擬試験の結果分析を綿密に行い、授業や補習における内容の精選をはかる。また課題を出すことにより問題量を確保する。	4 3 2 1
				4 3 2 1

・理科

年次	前年度の改善点	本年度の目標	具体的な教員の取組	評価
1	①教材を工夫し、家庭学習における、生徒の積極的・自主的な取り組みを支援する。	①問題集や課題プリントの提出率 100 %。	①家庭学習を行う習慣を身につけさせ、基礎・基本を繰り返し演習することができるよう、問題集を活用したり、学習プリントを工夫したりして、生徒の学力の伸長を図る。	4 3 2 1
				4 3 2 1
2	①授業内で ICT 教材や演示実験を提示するときは、新教育課程に対応し、内容を精選して行う。	① ICT 教材や実験を活用した授業を年間 5 回以上行う。	①各科目の授業において、演示または生徒実験や、理科ねっとわーく、その他視聴覚教材を用いた授業を可能な限り展開することで、現象や法則の理解を図り、科目に対するさらなる興味を喚起し、自己学習につなげる。	4 3 2 1
				4 3 2 1
	①センター試験や模擬試験等の結果、全国平均には届かない場合	①センター試験において、各科目の全国平均点を上回る生徒の割合が前年	①-1 定期考査や模擬試験の結果等を参考にしながら、生徒の弱点を分析し、そこに焦点を当てた授業展開を行う。	4 3 2 1
				4 3 2 1

3	が多く、基礎基本の定着や応用力、特に科学的に考える力の育成が、急務である。	度以上。	①-2 特に理系志望者には、早い段階で、将来の学びと連結して科目内容を捉えさせ、学習意欲のさらなる喚起を図る。 ①-3 必要に応じて特別補習や学習合宿を行い、重点的に学習の機会を持つことで、生徒の理解を助ける。 ①-4 早朝・放課後補習の内容をさらに充実させ、二次試験に対応できる力と、生涯にわたって学び続ける事のできる力を身につけさせる。
---	---------------------------------------	------	--

・英語科

年次	前年度の改善点	本年度の目標	具体的な教員の取組	評価
1	①基礎基本の定着を目指し、語彙力を身につけさせる。	①単語・熟語テストで平均点 60 点以上を目指す。	①-1 授業中に単語帳を使って単語を調べる等、頻繁に単語帳を見る機会を設け、単語の定着を図る。 ①-2 毎週小テストを実施し、不合格者には、課題を与え学力の補充を図る。	4 3 2 1
2	①学習習慣の確立と語彙力の定着を図り、読解力を伸ばす。	①語彙力や文法・語法の知識の定着と、読解力の伸長を図り、課題テストの学年平均が 110 点を上回る。	①-1 単語テスト、文法・語法テキストを使った小テストを定期的に行い、不合格者には追試を行う。 ①-2 読解力を高めるために適切な課題を与え、自ら学ぶ学習習慣を身につけさせる。	4 3 2 1
3	①基礎基本の完成を図り、入試に対応できる実践力を養う。	①リスニングを含めた大学入試センター試験の校内平均点と全国平均点との差を 10 点以内にする。	①小テストや定期考査、模擬試験等の結果分析を綿密に行い、その結果を参考にし、授業方法や補習内容を検討し、改善策を熟考する。	4 3 2 1

・学年

年次	前年度の改善点	本年度の目標	具体的な教員の取組	評価
1	①学年集会、個人面談等の機会を利用し、学習習慣の確立の重要性を粘り強く伝える。	①平均家庭学習時間 2.0 時間以上をめざす。	①-1 毎朝の SHR で家庭学習調査を実施する。それを担任・副担任でチェックし、生活状況を把握し、アドバイスや激励の言葉をかける。 ①-2 担任が必要に応じて適宜面談を実施する。 ①-3 生徒に進路意識を持たせるために、早期に進路講演会を行う。	4 3 2 1
	①「学習時間調査」を有効活用し、個人面談の際にもそれらを活用	①家庭学習時間 2.5 時間以上をめざす。	①-1 毎朝の SHR で「家庭学習時間調査」を担当、副担任がチェックする。学習時間、生活状況、また教科での学	4 3 2 1

2	する。		<p>習の偏りなどについてコメントを記入し，声かけを行う。</p> <p>①-2 定期的に学年会を開き，生徒の学習状況の把握やその改善法について協議する。</p> <p>①-3 担任が必要に応じて面談を実施し，学習方法や進路についてアドバイスをを行う。</p>	
3	①一人ひとりの進路に応じて進路指導や個別面談のあり方を考えていく。	①平均家庭学習時間3.0時間以上をめざす。	<p>①-1 生徒の進路を踏まえ，家庭学習記録を活用した面談を実施する。</p> <p>①-2 HR活動，学年集会，進路講演会を通じて，生徒の進路に対する意識を高めるとともに，保護者との連携を深める。</p> <p>①-3 進路課と連携して進路検討会を充実させる。</p>	
				4 3 2 1

3 全体評価

	評 価
	4 3 2 1